

鋼の流通

江戸時代（1603 年～1867 年）、鉄や鋼は太いわら縄で巻いた木箱で出荷されていた。ロープに編み込まれた輪は、どの方向からでも箱をつかむために使われた。。不注意な作業員が船積み中に重い荷物を海に落としても、沈む前にボートフックでループを引っ掛ければすぐに回収できる。

安来を出港した船は当初、日本海沿岸を南西に向かい、その後関門海峡を東に回り、瀬戸内海を渡って大阪に向かった。しかし、この航路は 18 世紀半ばに拡張された。安来から北前船と呼ばれる商船が北東に向かい始め、日本最北端の島々を時計回りに周遊することで、大阪と北海道を結ぶ海上ネットワークが形成された。物資と人の流れが活発になった結果、安来は商業の中心地となった。